



宮崎大学農学部ロゴマーク



宮崎大学農学部

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
TEL 0985-58-2875 FAX 0985-58-2884
<https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/>



Faculty of Agriculture University of Miyazaki

宮崎大学 農学部

学部案内2027

【農学科】

動植物資源生命科学コース
森林環境持続性科学コース
海洋生命科学コース
応用生命化学コース

【獣医学科】



宮崎大学農学部

Faculty of Agriculture University of Miyazaki

CONTENTS

■ 農学部02

学科紹介

■ 農学科

■ 動植物資源生命科学コース04

■ 森林環境持続性科学コース06

■ 海洋生命科学コース08

■ 応用生命化学コース10

■ 獣医学科12

■ 大学院14

■ 附属施設16

■ 地域連携活動17

■ 国際交流活動17

■ カリキュラムマップ18

■ 教員紹介20

学部長あいさつ



農学部長 國武 久登

自分のやりたいことがみつかる学部

食や環境への関心が高まる現代において、食料不足や地球温暖化、海洋汚染といった地球規模の課題は、皆さんの未来と直結する問題となっています。一方で、農業の現場では異業種からの参入やデータサイエンス、AIといった最先端技術の導入が進み、食料生産の姿は大きく変わろうとしています。今、求められているのは、こうした変化を前向きに捉え、新しい価値を創り出すことができる「次世代の農学人材」です。

宮崎大学農学部は、令和7年4月に新たな姿へと生まれ変わりました。これまでの専門分野に特化した教育から一歩進み、幅広い知識を基盤としながら柔軟で論理的に考え、課題解決に取り組む力、いわば「農学ジェネラリティ」を育成する教育へと進化しました。その実現に向けて、本学部は農学科および獣医学科の2学科体制へと再編いたしました。とりわけ農学科においては、一定の制約はあるものの、入学時に専門分野を固定するのではなく、学びを深める過程で自身の興味・関心を見出し、本当に取り組みたい分野を選択できる「コース制」を導入しています。高校生の皆さんの中には、将来の進路や夢がまだ明確でない方も多いことでしょう。しかし、それは決して不安に感じる必要のあることではありません。本学部には、作物学、園芸学、畜産学、水産学、森林科学、環境科学、生命科学といった、農学を構成する多様な専門分野の教員が在籍しており、分野横断的な学びを通じて、自らの可能性を大きく広げることができます。だからこそ私たちは、本学部が「自分のやりたいことがみつかる学部」であると、自信をもって言えるのです。

また、本学部が位置する宮崎県は、畜産や園芸、林業が盛んな全国有数の農業県であり、実際の生産現場に触れながら学べる恵まれた環境にあります。「地域そのものがキャンパス」となり、教室だけでは得られないリアルな体験を通して理解を深めることができます。さらに、西日本最大級の牧場を有する附属次世代農学教育研究センターや動物病院では、最先端の機器を活用した実践的な教育が行われており、アグリDXと呼ばれる新しい農業の姿を体感することもできます。本学部は、その前身である宮崎高等農林学校の設立から100年という歴史を重ねてきました。「ひなたの下で育んだ100年の農学を次世代へ」という思いのもと、私たちは今、新たな一歩を踏み出しています。

高校生の皆さん。今はまだ将来の夢がはっきりしていなくても構いません。多様な学びと出会いの中で、自分自身と向き合い、「これだ」と思える道にきっと出会えるはずです。宮崎の豊かな自然の中で、生命科学と環境科学が融合した新しい農学に触れながら、自分の可能性を見つけてみませんか。ここには、皆さん一人ひとりの「やりたいこと」が見つかる学びがあります。

宮崎大学農学部スローガンとビジョン・ミッション

【スローガン】

持続可能な地域社会の構築と世界への発信

ーSDGsへの取り組みとデータサイエンスの融合ー

異分野融合科学としての農学の特徴を活かし、南九州の温暖な自然や地域社会と調和した農林水産業・獣医療の推進を通して、持続可能な社会の構築と、これを担う人材の育成に貢献し続ける。

【ビジョン・ミッション】

持続可能な社会の構築と人材育成

地域・国際協働を通して、社会の要請に応え得る高度な農林水産業と獣医療の研究を推進し、これを基盤にSDGsとデータサイエンスを組み入れた人材育成の高度化と質保証を図るとともに、これらを推進できる持続的で活力ある教育・研究組織を構築する。



詳細はこちら▶▶▶

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/introduction/vision-mission.html>



農学部

地球は愛と農学で回っている。



環境問題、資源・エネルギー、生命、食料…。
 私たちが直面している問題は、どれも農学が深く関わっている。
 この美しい星を守るために、人類の未来と幸福を支えるために、
 宮崎の恵まれた自然環境の中で、農学と真剣に向き合える。

- 農学科
- 動植物資源生命科学コース
- 森林環境持続性科学コース
- 海洋生命科学コース
- 応用生命化学コース
- 獣医学科

卒業生からのメッセージ



独立行政法人酒類総合研究所
 広報・産業技術支援部門 主任研究員

芳村 俊広 さん Toshihiro Yoshimura
 奈良県 橿原高等学校出身

きっかけは「なんとなく」でもいい

私は、日本で唯一の酒類に関する国の研究機関の独立行政法人酒類総合研究所で、酒類製造者への産業支援という仕事に携わっています。

実家が清酒の蔵元だったこともあり、「他のお酒も知りたいな」という軽い気持ちで、焼酎の本場・宮崎の大学を選びました。そんな漠然としたスタートでしたが、宮崎大学での日々は想像以上に刺激的でした。熱心な先生や先輩、切磋琢磨し合える友人と出会い、研究を通じて学んだのは「自ら計画し、実行し、改善していく力」。この力は、社会人になった今も私の大きな支えとなっています。

受験生の皆さん、今はまだ明確な目標がなくても大丈夫。大学で何を得たいか、自分なりの目的を持って一歩ずつ進めば、結果は必ずついてきます。皆さんの挑戦を応援しています。



独)酒類総合研究所提供

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/>



施設紹介

田野フィールド(演習林)

森林環境持続性科学コースによる森林科学に関する実習のみならず、全学を対象とした体験的な学習も行われている。



木花フィールド(農場)

動植物資源生命科学コースを中心に農に関する専門的な知識と実践的な技術を身につける事を目的としている。



延岡フィールド(水産実験所)

主に海洋生命科学コースの学生を対象とした実習を開講。隣接する海岸での生物の採取や飼育施設を利用した実習を通じて、水圏生物や環境への理解を深める。



附属動物病院

伴侶動物、産業動物の治療および臨床研究を行うとともに、学生の臨床教育や実習の場としても活用している。



住吉フィールド(牧場)

家畜生産のみならず飼料生産から畜産物利用まで、総合的な畜産関連の知識・技術を実践的に学習することができる。



附属農業博物館

農・林・畜・水産業に関する資料を収集・展示すると共に、農学部で行われている最新の研究とその成果を紹介している。

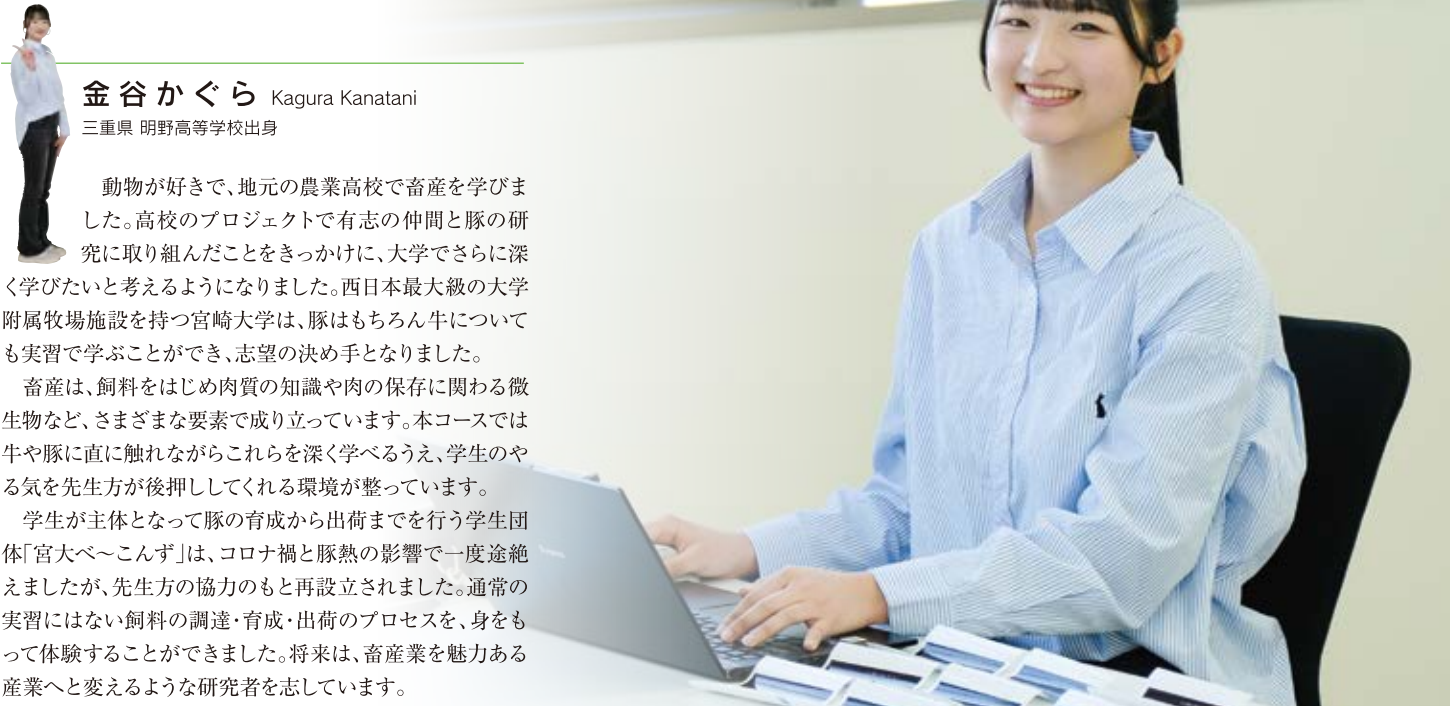


動植物資源生命科学コース

Course of Animal and Plant Biosciences

動植物生産と生命科学の連携・融合による新たな教育、研究、農業の開拓をコンセプトに、動物や植物に関する基礎研究をはじめ、食料資源としての家畜生産や植物生産を総合的に学びます。生産性や品質の向上、環境保全、アニマルウェルフェアに配慮した持続可能な生産現場の構築、食の安全の確保を目指し、『未来の農業』を実現する人材を育成します。

西日本最大級の大学附属牧場施設 畜産のすべてをフィールドで学ぶ



金谷 かぐら Kagura Kanatani
三重県 明野高等学校出身

動物が好きで、地元の農業高校で畜産を学びました。高校のプロジェクトで有志の仲間と豚の研究に取り組んだことをきっかけに、大学でさらに深く学びたい考えるようになりました。西日本最大級の大学附属牧場施設を持つ宮崎大学は、豚はもちろん牛についても実習で学ぶことができ、志望の決め手となりました。

畜産は、飼料をはじめ肉質の知識や肉の保存に関わる微生物など、さまざまな要素で成り立っています。本コースでは牛や豚に直接触れながらこれらを深く学ぶうえ、学生のやる気を先生方が後押ししてくれる環境が整っています。

学生が主体となって豚の育成から出荷までを行う学生団体「宮大べ〜こんず」は、コロナ禍と豚熱の影響で一度途絶えましたが、先生方の協力のもと再設立されました。通常の実習にはない飼料の調達・育成・出荷のプロセスを、身をもって体験することができました。将来は、畜産業を魅力ある産業へと変えるような研究者を志しています。

動植物資源生命科学コース カリキュラム

		1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
教養教育科目	学 科 共 通 目	導入科目(大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語、専門接続系、基礎統計学)			
		課題発見科目(データサイエンス系、自然・生命・技術系、人文・社会・芸術系、地域・国際・学際系)			
		未来共創科目(構想・デザイン系)			
学科共通科目	必修科目	●農学・獣医学入門 ●農学獣医学グローバル入門 ●農学・獣医学DX入門		●農学・獣医学データサイエンス演習 ●農学・獣医学の倫理と安全 ●農学・獣医学専門英語演習	
	選択科目	●食資源学入門 ●農学基礎実験・実習Ⅰ ●農学基礎実験・実習Ⅱ			
コース専門基礎科目	必修科目	●基礎動植物学 ●GAP概論 ●基礎環境資源経済学 ●生命化学概論 ●基礎海洋資源科学 ●アグリノベーション概論 ●動物行動学 ●環境気象学 ●化学概論 ●基礎行動・生態学			
	選択科目	●宮崎の農業	●栽培学 ●土壌肥科学 ●畜産食品科学 ●動物環境管理学 ●農業経済学 ●植物育種学	牧場実習Ⅰ・Ⅱ 飼料作物の栽培・管理・利用から家畜の飼養管理に関する基本的な知識について、本学が所有する広大な附属牧場で実際に体験し習得できる実習です。	
コース専門選択科目	必修科目	農場実習Ⅰ・Ⅱ 作物、野菜、果樹の栽培から収穫まで、無人田植え機、AIトラクター、農業散布ドローン、IoTセンサーなど様々な最新機器を使って実習を行います。	●農場実習Ⅰ ●牧場実習Ⅰ	●動植物資源生命科学専門実験・実習Ⅰ ●動植物資源生命科学専門実験・実習Ⅱ	●卒業研究
	選択科目	●果樹園芸学総論 ●植物生理学 ●野菜園芸学総論 ●果樹園芸生理学 ●農場実習Ⅱ ●昆虫生態学 ●雑草防除学 ●農地環境工学 ●植物遺伝資源・育種学実験 ●動植物生産データサイエンス ●衛生微生物学 ●動物育種資源学 ●家畜栄養学 ●作物学総論 ●飼料作物学 ●草類利用学 ●動物生理学Ⅰ ●施設園芸学 ●植物生産科学実験Ⅰ ●花き園芸生理学 ●植物生産科学実験Ⅱ ●企画実習 ●植物病理学総論 ●植物病理学各論 ●草地生産・土壌肥科学実験 ●生物生産機械学 ●園芸利用学 ●動物生殖生理学 ●家畜栄養学実験 ●草地畜産論 ●草地と草食獣の生態学 ●草類利用学実験		●野菜園芸学各論 ●果樹園芸学各論 ●総合的害虫管理学 ●植物遺伝資源学 ●遺伝子工学 ●野生動物学実験 ●生産流通施設学 ●社会統計学 ●畜産食品製造学 ●食品衛生学 ●水産化学 ●食品製造学 ●国際農業論 ●GAP指導員講座 ●動物生殖制御学 ●実験動物学各論 ●家畜・動物園動物管理実習 ●動物生殖生理学実験 ●牧場実習Ⅲ ●農業科教育法Ⅰ ●動物解剖学Ⅰ ●動物解剖学実習 ●動物生理学Ⅱ ●毒性学 ●栽培植物起源論 ●フィールド実践実習(農場) ●草地植生管理学 ●植物栄養化学 ●作物生産学 ●生物計測工学 ●動植物生産データエンジニアリング ●農畜産食品開発学実験 ●青果代謝生理学 ●公衆衛生学 ●分析化学 ●農産食品製造学 ●食品保蔵化学 ●水産食品製造学 ●農業経営学 ●農業・社会調査実習 ●飼料学 ●動物福祉学 ●動物育種学 ●動物遺伝育種学実験 ●実験動物学実習 ●農業科教育法Ⅱ ●動物解剖学Ⅱ ●実験動物学 ●薬理学Ⅰ ●動物衛生学	
		農業・社会調査実習 生産現場や地域社会について調査し、地域資源の有効活用や地域社会の抱える問題について分析します。			
					●学外体験実習 ●スマート農業インターンシップ

求める学生像



動植物資源生命科学コースでは、畜産・実験動物・草地・植物・園芸・食品・遺伝育種・土壌肥料・スマート農業・生命科学などの多様な教育・研究を行っています。これによって、動植物生産、生命科学、次世代農業をトータルにコーディネートできる人材を育成することを目標としています。そこで、本コースでは次のような人を求めています。

- 動植物や自然環境、農業・畜産に強い関心をもち、持続可能な社会の実現に向けて積極的に学ぼうとする人
- 大学での学修に必要な理科(特に生物・化学)に関する基礎学力と幅広い知識を備えている人
- 観察や実験を通じて得た事実を深く考察し、自らの考えとしての確に表現できる人
- 国際的な視野と社会的責任感をもって、学びを社会に活かそうとする姿勢をもつ人
- 学業や学校内外の活動を通して、他者と協力しながら主体的かつ積極的に行動できる人

動植物に関する幅広い・ユニークな研究

畜産・実験動物・草地・植物・園芸・食品・遺伝育種・土壌肥料・スマート農業・生命科学などの多様な研究

家畜の生産性を持続的に高めていくための研究

肉用牛および豚を対象に、超音波を利用した産肉能力の推定、ゲノム情報を用いた統計遺伝学的・分子遺伝学的アプローチによる遺伝的要因の解明を行っています。また、未利用資源を活用した飼料開発や試験管モデルを用いた豚卵子の発生能力の向上によって、家畜の生産性を持続的に高める研究も行っています。



遺伝子実験の様子

豚卵子細胞質の脂肪滴分布像
飼料用に加工される規格外サツマイモ

土壌環境や飼料の生産性向上のための様々な研究

窒素の有効利用による環境保全型農業の確立や、家畜の飼育に欠かすことのできない飼料の生産性向上に関する教育研究を行っています。有用な土壌微生物の利用、植物の環境ストレス耐性、新規牧草の導入評価についても取り組んでいます。



暖地型マメ科牧草の生育調査

塩類集積土壌モデルを用いた植物(シバ)の環境ストレス試験の様子

新しい高品質野菜生産のための研究

野菜の生理・生態を明らかにする研究やトマトにストレス(乾燥や塩)を与えて食味・機能性成分を高める研究、野菜の新しい栽培システムを開発する研究など様々な課題に取り組んでいます。これらの研究から新しい高品質野菜生産について考えていきます。



通常の栽培トマト

塩ストレスによる高品質トマト

栽培環境制御による生産性と品質の向上

糖質分析による品質評価

ストレス付与によるトマトの高品質化

短日条件下で肥大したミニ連根(種子から栽培)

野生由来実験動物や野生動物の保全・管理に関する研究

動物の習性や特徴を解析することで、人々や動物に役立つ情報を蓄積しています。特に、小型齧歯類を中心に、実験動物としての潜在能力の探究と開発、動物園動物や愛玩動物のより良い飼養管理、さらには希少野生種の保全に関する研究に力を入れています。



母子関係、アタッチメント、社会行動の発達に関する研究

ハムスターの行動と腸内細菌叢の研究

AI・スマート農業技術を活用した動植物生産に関する研究

動物分野では、ドローンやロボット、活動センサーを活用し、草地を持続可能に利用し、家畜のウェルフェア・健康状態を向上させる研究に取り組んでいます。植物分野では、AIを搭載した栽培装置の作成や栽培データと機械学習を使った品質予測など、新しい栽培技術の確立に取り組んでいます。



ドローンを用いた草地の調査風景

トマト温室内の栽培データ取得装置

シングルボードコンピュータを導入した栽培装置

取得可能な免許、資格

- 高等学校教諭一種免許状(理科・農業)※1
- 学芸員※2
- 実験動物1級技術者※3
- 飼料製造管理者※4
- 食品衛生監視員※4
- 食品衛生管理者※4
- 家畜人工授精師※5

- ※1 別に定める教育職員免許法の科目の所要単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請する必要があります。
- ※2 所定の単位を修得し、申請すると、「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。
- ※3 所定の科目の単位を修得すれば、4年次に受験することができます。学科および実地の両試験に合格した者は、認定登録申請により実験動物1級技術者の資格を得ることができます。
- ※4 卒業までに所定の単位を修得する必要があります。卒業後の勤務先で資格取得が必要となった場合に手続きを行います。
- ※5 所定の科目の単位を修得し、その他所定の要件を満たした人は卒業後に資格を得ることができます。

※時間割の都合上、複数の取得可能な免許、資格の取得は困難な場合があります。

森林環境持続性科学コース

Course of Forest Environment and Sustainability Sciences



森 林や緑地は、私たちの暮らしや地球の未来と深くつながっています。本コースでは、フィールドワークや実験・調査を通して、生物多様性の保全、水や土壌の環境管理、野生動植物保護、森林資源の活用などを実践的に学びます。自然と人間が調和する持続可能な社会を、科学の力で支える人材を育成します。

生物好きだから選んだ 森・水・植物、ここで学べる



北川 萌 百 花 Momoka Kitagawa
佐賀県 白石高等学校出身

生物全般への関心から、植物や水など幅広いテーマを学ぶことができる宮崎大学農学部を志望しました。広大な演習林での測量実習など、実践的な環境が整っている点も大きな魅力です。

入学後は、高校では触れなかった林業や森林を深く掘り下げられるだけでなく、水資源との深い関わりにも驚きを覚えました。卒業生の進路も林業にとどまらず、公務員・不動産・食品・製薬など幅広い分野に広がっており、その多様さは入学当初の予想を大きく超えるものでした。

現在はスダジイとツブラジイを研究テーマとしています。フローリング材に多く使われる樹種でありながら、国内ではまだ植林が進んでいません。材木利用や林業発展のヒントを探ることを目指しています。

森林は馴染みが少ない分野かもしれませんが、生物好きにとっては植物や水に関係した実習も多い学びの場です。自然の中で学びたい人には、ぜひおすすめしたい環境です。

森林環境持続性科学コース カリキュラム

教養教育科目 学科共通科目 学科共通科目 専門基礎科目 専門科目	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
	導入科目(大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語、専門接続系、基礎統計学)			
	課題発見科目(データサイエンス系、自然・生命・技術系、人文・社会・芸術系、地域・国際・学際系)			
	未来共創科目(構想・デザイン系)			
	● 農学・獣医学入門 ● 農学・獣医学DX入門 ● 農学・獣医学グローバル入門		● 農学・獣医学データサイエンス演習 ● 農学・獣医学の倫理と安全 ● 農学・獣医学専門英語演習	
● 農学基礎実験・実習Ⅰ ● 食資源学入門 ● 農学基礎実験・実習Ⅱ ● アグライノベーション概論 ● 化学概論 ● 基礎行動・生態学 ● 生命化学概論 ● GAP概論 ● 動物行動学 ● 基礎海洋資源科学 ● 基礎動物植物学 ● 環境気象学 ● 基礎環境資源経済学 ● 九州沖縄農林水産学	樹木学実習 九州南部の森林に自生する樹木を同定できる能力を身につけます。		森林保護学 森林で発生する病虫害・獣害等の現状と発生メカニズムを学び、森林管理やワイルドライフマネジメント、生物多様性保全の場においてこれらに対処するための基礎的知識を身につけます。	
● 森林環境持続性科学概論 ● 環境計測学 ● 景観生態学		● 森林生態学 ● 樹木学 ● 木本植物組織学 ● 環境防災学		
環境計測学 生物や環境を認識するために観察し、数値として表される「データ」を得る手段と解釈する手段の基礎、環境問題に対処するための考え方を学びます。	● 樹木学実習 ● 木本植物組織学実験 ● 基礎物理学 ● 基礎数学 ● 森林経済学 ● 森林計測学 ● 森林計測学実習 ● 森林フィールド特別実習 ● 樹木生態生理学 ● 砂防学 ● 構造力学 ● 土質力学		● 森林利用学 ● 森林政策学 ● 森林資源利用科学 ● 造林学 ● 水理学 ● 環境材料科学演習 ● 農山村環境計画学 ● 測量学 ● 測量学実習 ● 森林保護学 ● 森林計画学 ● 森林土壌学実習 ● 森林資源利用科学実験 ● 植生調査実習 ● 木材工学 ● 環境空間情報学 ● 応用力学・水理学 ● 水資源管理学 ● 造林学実験実習 ● 学外研修	● 植物生理学総論 ● 農地環境工学 ● 土壌肥科学 ● 植物病理学各論 ● 雑草防除学 ● 卒業研究

求める学生像



森林環境持続性科学コースでは、森林や緑地、生物・土壌・水環境を対象に、科学的・数理的な視点から自然を解析し、生産と保全を両立させる方法を探ります。フィールド調査や実験で得られたデータを、統計や解析手法を用いて客観的に読み解き、国内外の里地・里山が抱える課題、地球規模の環境問題に対して、その解決方法を社会に提案できる人材の育成を目標としています。そこで本コースでは次のような人材を求めています。

- 自然や野生動植物が好きで、その仕組みを科学的に解き明かしたい人
- 理科(生物や物理)や数学などの基礎学力のある人、またはそれらを伸ばしていきたい人
- データや野外観察結果をもとに論理的に考えることが好きな人
- 自然を「好き」で終わらせるのではなく、科学の力で「理解」し解決につなげる意欲のある人
- 森林・農地・環境分野の専門性を活かして社会に貢献したい人

教育・研究のキーワード

森林と農地の生態系を科学的に評価し、守る

綾ユネスコエコパークや世界農業遺産の高千穂郷・椎葉山地域など、宮崎の豊かな自然をフィールドに、野生動植物の保護や生態系保全について科学的に解析・評価する研究を行っています。森林や農地の多面的な機能を、自然科学と社会科学の両面から解析・評価し、地域や社会、産業に活かす力も養います。



日向夏を対象としてミツバチの送粉サービス評価



生態系の保全と管理



希少生物の保護

森林を育て、緑の力で防災・水資源を支える

林業が盛んな宮崎の森林を活用し、生物多様性や水資源も考慮した生態系管理手法を、国や県、企業と連携して研究開発します。ドローンや測量・解析技術など最新の手法を取り入れ、緑を生かした防災・水資源管理にも挑戦します。



水路の生物多様性調査



棚田での水資源調査



土砂災害の要因を探る

世界の森林・環境問題に挑む

地球環境のモニタリングや海外の大学との協定を活かし、国際的な視野で教育・研究を展開します。フィールドで得たデータや知見は、国内外の森林・環境問題解決に活かされます。国際共同研究や海外研修を通じて、世界で通用する知識と実践力を身につける教育を行っています。



ヨーロッパの森林研修



インドネシアのアグロフォレストリーでの生物多様性調査

充実したフィールド教育・最先端の研究

広大な演習林などを舞台に、森林緑地の機能、生態系の保全、緑を活用した防災など様々な実習を行うと共に、持続可能な社会に向けた森林資源の活用を目指し、高層ビルの建築も可能になる木材の高度利用に向けた材質研究など、最先端の教育・研究を行っています。



森林が吸収・放出している二酸化炭素吸収量を測定



森林3次元計測システムを使った森林研究

卒業後の主な進路

公務員(農水省、林野庁、県、市町村など)、教員、林業、木材産業、農林業関連団体(森林組合系、土地改良事業団、JA系など)、環境・緑化・農業土木関連企業(建設コンサルタント、造園・建設会社)、環境アセス・コンサルタント 大学院進学 他

取得可能な免許、資格

- 高等学校教諭一種普通免許状(農業、理科)^{※1}
- 普及指導員^{※3}
- 樹木医補^{※4}
- 学芸員^{※2}
- 林業普及指導員^{※3}
- 測量士補^{※4}
- 自然再生士補^{※4}
- 森林情報士2級^{※5}

^{※1} 別に定める教育職員免許法の科目の所要単位を修得し、各都道府県教育委員会に申請する必要があります。
^{※2} 所定の単位を修得し、申請すると、「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。
^{※3} 資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので受験に有利になります。なお、資格試験を受験するには大学卒業後4年以上の実務経験が必要です。
^{※4} 所定の科目の単位を修得し、関係機関に申請すると、資格を得ることができます。
^{※5} 所定の科目の単位を修得し、別途条件を満たして関係機関に申請すると、資格を得ることができます。

※時間割の都合上、複数の取得可能な免許、資格の取得は困難な場合があります。

海洋生命科学コース

Course of Marine Life Science



海洋は地球の環境を和らげ、生物資源に満ちています。海洋を含む水圏環境について深く学び、食料資源としての養殖生産、生物の多様性および海洋資源の利活用を探究するコースです。地域だけではなく国際社会で活躍できる農学ジェネラリティ能力を有するスペシャリストの育成を目指します。

豊かな実習環境が育む フィールドと座学の学び



岡本 萌 Moe Okamoto
大阪府 春日丘高等学校出身

魚を食べることや見るのが好きで、将来は水産系の仕事に就きたいと考えていました。近年は海水温の上昇など環境問題が深刻化しており、宮崎大学農学部ではそれらの問題に対するさまざまな解決策へのアプローチを学ぶことができるのではないかと思います、入学を決めました。

入学前は海洋のことだけを学ぶと思っていましたが、無機化学など化学系の講義もあり、学びの幅は大きく広がりました。海に入る実習が豊富で、フィールドワークと座学の両面から知識を深めることができます。私は船に乗る実習は経験しませんでした。沖合にある養殖場を見学するなど、海に近い環境を生かした学びは誰もが経験できます。フィールドと座学を組み合わせた学習環境は、宮崎大学農学部が持つ大きな強みです。

現在は研究室で、魚の持つ機能を解明する分子生物学を専攻しています。遺伝子系や生理学系の分野に以前から関心があり、その探究を深めています。研究を通じて身につけた知識や技術を、卒業後も水産に関わる仕事の中で役立てていきたいと考えています。

海洋生命科学コース カリキュラム

教授 教育科目	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
	導入科目(大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語、専門接続系、基礎統計学)			
	課題発見科目(データサイエンス系、自然・生命・技術系、人文・社会・芸術系、地域・国際・学際系)			
	未来共創科目(構想・デザイン系)			
専門科目	学部共通科目 ●農学・獣医学入門 ●農学・獣医学グローバル入門 ●農学・獣医学DX入門		●農学・獣医学データサイエンス演習 ●農学・獣医学の倫理と安全 ●農学獣医学専門英語演習	
	学科共通科目 ●食資源学入門 ●農学基礎実験・実習Ⅰ・Ⅱ ●基礎動物学 ●アグリノベーション概論 ●GAP概論 ●動物行動学 ●基礎環境資源経済学 ●環境気象学 ●生命化学概論 ●化学概論 ●基礎海洋資源科学 ●基礎行動・生態学			
	コース専門基盤科目 ●海洋生物環境学概論		●環境微生物学 ●海洋生物分類学 ●浅海生態学 ●生物の多様性と遺伝子科学	
	●水産食品科学 ●水域生物生理学 延岡フィールド臨海実習 延岡フィールド周辺の海域に棲む生物を採集し、分類学の基礎知識を実物から学びます。集めた生物と知識により、ミニ水族館展示も企画・運営します。	●水生生物解剖分類学実験 ●水産化学 ●水族生理学実験 ●魚類学 ●水産化学実験 ●マリンバイオテクノロジー ●動物生体防御学 ●魚類生理学 ●サンゴ礁学 ●養殖学入門 ●水産食品微生物学 ●組織学 ●水族館学 ●延岡フィールド臨海実習 ●水産食品製造学 ●水族病原微生物学 ●水産法規 ●藻類分類学 ●海洋生物探査講座 ●遺伝子工学	●海洋微生物学実験 ●水産増養殖学 ●水産飼料学 ●魚病学 ●海洋分子科学 ●微生物との共生 ●魚類生態環境学 ●食品保存化学 ●食品衛生学 ●公衆衛生学 ●水族生産学体験講座 ●水産科教育法	水族生産学体験講座 水産に関わる最先端の研究施設・養殖施設などを見学し、水産の現場を実際に学ぶ授業です。現場を知り、様々な課題を肌で感じ、将来に役立ちます。 ●卒業研究

求める学生像



海洋生命科学コースでは、農学の幅広い学問領域において基礎的知識や能力(農学ジェネラリティ)を備え、かつ食料、環境、資源及び生命に関する高度な専門性(実践型スペシャリティ)を有する人材の育成を目標としています。
そこで、海洋生命科学コースでは次のような人材を求めています。

- 高等学校で履修した生物・化学・英語を中心基盤とした知識や思考力を持ち、水圏生物および環境に関する自然科学に強い関心を抱いている人
- 水圏における食料・生命・資源・環境に関わる課題に対する強い関心を持ち、論理的思考を深め、課題解決に向けて探求する意欲のある人
- 国際社会におけるダイバーシティの理解に努め、様々な場面において、他者との協力を厭わない人間性を備えた人
- 水域生物の資源の利活用を意識し、それらを主体的に学ぶ姿勢を持ち、地域および国内外での貢献を志す人
- さまざまな先端技術に興味を持ち、それらを主体的に学び探求する意欲にあふれる人

教育・研究のキーワード

フィールド教育と人材育成

宮崎の温暖な海を活かした充実したフィールド教育・研究を行っています。臨海施設での実習、乗船実習、水産研究機関・企業での実地教育をととして、体験と授業での知識を融合させます。柔軟な視点で海の生物や環境の未来を考え、水族館から医薬・産業まで、幅広い分野で活躍できる即戦力人材を育成します。



延岡フィールドでの実習



乗船実習での航海のようす

海洋微生物による有用物質生産

海洋には未知の微生物が多数潜んでいます。陸上微生物とは異なる性質を研究し、医薬成分やバイオプラスチックなどへの応用を行っています。油糧微生物によるバイオ燃料の開発といった新たな技術開発研究をととして、資源問題への寄与、私たちの暮らしに利活用するための研究を行っています。



海洋微生物が作り出す油



有用物質をつくるミドリムシ

魚の持続可能な水産に向けた研究

魚の持続可能な水産業に寄与するため、病気の対策、成長や繁殖などの体内機構の解明を行っています。チョウザメ、ウナギ、メダカ、サメなどの絶滅危惧種からサケやアジ・サバなどの水産有用魚種における新たな成長・繁殖技術の開発、食品利用研究をととして、日本の水産業の発展に役立ちます。



チョウザメのキャビア生産



ニホンウナギの卵

海洋生物の生態・分類と環境教育

宮崎県を中心に、海洋生物の不思議な生態の解明や、新種発見といった分類などの研究を行っています。海洋微生物から、サンゴや貝などの無脊椎動物、魚類まで様々な生き物を対象にし、図鑑の作成、野外調査、食害生物の駆除など環境保全に寄与する研究・活動をととした環境教育を行っています。



宮崎の大サンゴ群集



魚図鑑をととした環境教育

卒業後の主な進路

水産物・食品・飼料製造流通関連企業、漁運・漁協等団体、船舶会社、医薬品関連企業、水族館・博物館・海洋観光産業、公務員、教員、環境アセス・コンサルタント、試験・研究所、大学院進学 他

取得可能な免許、資格

- 高等学校教諭一種普通免許状(水産、理科)※1
- 学芸員※2
- 食品衛生監視員※3
- 食品衛生管理者※3
- 潜水士※4

- ※1 別に定める教育職員免許法の所要単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請する必要があります。
- ※2 所定の単位を修得し、申請すると、「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。
- ※3 卒業までに所定の単位を修得する必要があります。卒業後の勤務先で資格取得が必要となった場合に手続きを行います。
- ※4 資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので、受験に有利になります。在学中に受験し、資格を得ることができます。

※時間割の都合上、複数の取得可能な免許、資格の取得は困難場合があります。

応用生命化学コース

Course of Applied Biochemistry and Biotechnology



生 命現象を化学の視点から探究し、人の健康、食糧、エネルギー、環境などに関する重要課題の解決に必要な素養を学ぶことができます。特に、生化学系の実践型教育カリキュラムを通して、動植物および微生物のもつ生物機能を生化学的に探究し、その技術化を通して地域社会の発展に貢献するだけでなく、国際社会を視野に入れて活躍できるリーダー人材の育成を目指します。

食品研究への興味が出発点
少人数実習と充実のサポートで成長



花井 優友 Yu Hanai
長崎県 長崎北陽台高等学校出身

生物が好きで、食品系の研究がしたいと考えるようになった際に、農学部という進路があることを知りました。さらに宮崎大学の出前講義で、大学に野生動物のサークルがあると聞き、入学への興味が深まりました。

入学後の「農業基礎実験実習」は少人数制で、大学院生がアシスタントとして丁寧にサポートしてくれます。もともと化学が少し苦手でしたが、分からない点をすぐに質問できる環境のおかげで、実験・実技を通じて苦手を克服できました。

本学では、自分の専門・専攻にかかわらず将来に役立つ情報を幅広く得られる環境が整っています。1年次からインターンシップにも参加できるため、大学4年間を通じて社会へ出る準備を着実に進められます。

現在2年生ですが、大学院進学を目標としており、化学はもちろん微生物や食品など幅広い分野を学ぶことができる本コースで、卒業までの間、関心の幅を広げ続けていきたいと考えています。



応用生命化学コース カリキュラム

1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
導入科目(大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語、専門接続系)			
課題発見科目(データサイエンス系、自然・生命・技術系、人文・社会・芸術系、地域・国際・学際系)			
未来共創科目(構想・デザイン系)			
学部共通科目 ●農学・獣医学入門 ●農学・獣医学グローバル入門 ●農学・獣医学DX入門 ●食資源入門 ●農学基礎実験実習I ●農学基礎実験実習II	微生物学 微生物の物質代謝である各種発酵の化学機構、生理活性物質及び各種発酵生産のバイオテクノロジー分野について学びます。	●農学・獣医学データサイエンス演習 ●農学・獣医学の倫理と安全 ●農学・獣医学専門英語演習 ●宮崎の地域活性化演習	
学科共通選択科目 ●化学概論 ●生命化学概論 ●GAP概論 ●基礎環境資源経済学 ●動物行動学 ●基礎海洋資源科学		食品栄養化学 食品を構成している栄養素や主要成分の化学的性質や健全に生命を維持するために必要な摂取量の他、消化・吸収・代謝について学びます。	
専門基盤科目			
●有機化学 ●分析化学 生物化学 生体の恒常性を維持する様々な代謝反応について、有機化学や物理化学の知識を土台に、各代謝反応を特に生体エネルギーの観点から化学的に学びます。	●化学各論 ●生物分子化学 ●酵素化学 ●微生物学 ●微生物学実験 ●分析化学実験 ●生物化学 ●食品栄養化学 ●食品製造学 ●有機化学実験 ●生物化学実験	●細胞機能分子化学 ●生体分子機能化学 ●食品機能化学 ●農産食品製造学 ●入門セミナー ●植物遺伝資源学 ●食品衛生学 ●公衆衛生学 ●微生物機能開発学 ●植物栄養生化学 ●食品保藏化学 ●水産食品製造学 ●畜産食品科学 ●動物生体防衛学 ●学外研修 ●生物機能科学実験 ●食品機能化学実験	●畜産食品製造学 卒業論文

求める学生像



応用生命化学コースでは、生命化学に関する基礎知識と応用生物化学・食品化学・生物工学の各領域に関する基礎および専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる人材、さらに、技術者の社会的責任やあらゆる状況下で計画的に仕事を進め、まとめる力を身に付けた人材の育成を目標としています。

- 化学をはじめとする自然科学に対して強い興味と探究心をもっている人
- 化学や生物などの理科(自然科学)や数学、英語などの基礎学力を備えている人
- 自然科学をはじめ、世の中の様々な事柄をよく観察して深く考察し、それを実現する力をもっている人
- 学業をはじめ、学校内外の活動に、積極的に取り組もうとする人
- 学業や学校内外の活動をはじめ、様々な場面において、他者との協力を厭わない人間性をもつ人

応用生命化学に関するユニークな研究

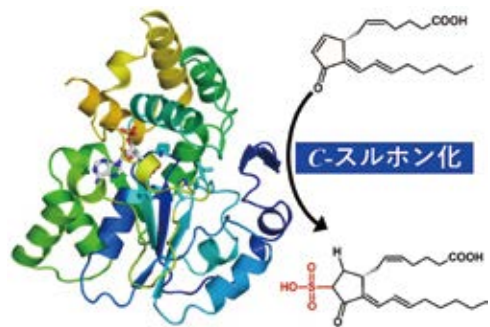
応用生物化学領域、食品機能化学領域、生物工学領域(微生物分野・植物分野)の3つの研究領域で様々な研究を展開しています。

応用生物化学領域

生体分子機能化学研究室

健康生命化学研究室

生体機能の解明と機能の活用に関する研究をしています。特に、生化学的な手法や最先端の分析技術を用いて、タンパク質などの生体分子の機能解明や応用に関する研究のほか、スルホン化と呼ばれるホルモン分子の活性制御を行う酵素反応に関する研究(右図)を行っています。また、炎症や免疫、肥満、老化の機構解明と食品成分による予防と効能に関する研究も行っており、ヒトの健康増進への貢献も目指しています。



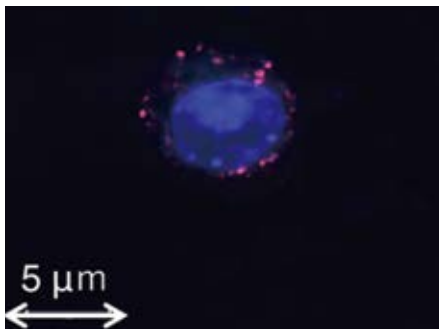
C-スルホン化反応と触媒酵素の立体構造

食品機能化学領域

营养化学研究室

食品機能化学研究室

食品の栄養機能と機能性の活用に関する研究を行っています。特に、食品成分による腸内細菌や腸内環境改善に関する研究や眼の視機能保護作用を有する食品成分の探索とその作用機構の解明研究を行っています。また、野菜や果実中に普遍的に存在しているナノ粒子はRNAなどの有用成分を包含する機能性ナノ粒子であり、生体を構成する細胞と相互作用します(右図)。食品の栄養機能解明や食品由来ナノ粒子の機能解明から、ヒトの健康増進への貢献を目指しています。



免疫細胞に取り込まれる食品由来のナノ粒子

生物学領域

微生物機能開発学研究室

環境微生物学研究室

植物生理学研究室

環境と微生物の相互作用解明およびその利用に関する研究を行っています。特に、微生物の機能を活用したアルコール発酵によるエネルギー資源の産生や微生物による有機廃棄物の代謝能力を活用したエネルギー生産と環境浄化に関する研究(右図)などを行っています。また、植物の生理機能解明と環境応答に関する研究を行っています。特に、植物の低温応答や葉緑体形成機構を標的とした新たな農薬や代謝機能改変技術の開発を目指します。



有機廃棄物処理を燃料に発電する微生物燃料電池

卒業後の主な進路

食品製造業、流通業、釀造業、医療・製薬関連企業(化粧品会社含む)、化学工業、環境化学関連企業、農業関連団体、公務員、教員、大学院進学
他

取得可能な免許、資格

- 高等学校教諭一種普通免許状(理科)^{*1} ■ 学芸員^{*2} ■ 食品衛生監視員^{*3}
■ 食品衛生管理者^{*3} ■ 普及指導員^{*4} ■ 毒物劇物取扱責任者^{*5}

- ※1 別に定める教育訓練見込法の所要単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請する必要があります。
- ※2 所定の単位を修得し、申請すると、「学習員による科目の単位修得証明書」が交付されます。
- ※3 卒業までに所定の単位を修得する必要があります。卒業後の勤務先で資格取得が必要となった場合に手続きを行います。
- ※4 資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので、受験に有利になります。なお、資格試験を受験するには大学卒業後4年以上の実務経験が必要です。
- ※5 卒業後、勤務先の専物動物を取り扱う製造所、営業所または店舗で必要とされる場合に、この資格をもつことができます(受験等の必要はありません)。

※時間割の都合上、複数の取得可能な免許、資格の取得は困難な場合があります。

獣医学科

Department of Veterinary Sciences



獣 医師国家試験に対応する獣医学教育を基本として、動物の疾患の予防・治療に関わる獣医師、動物と人の共通感染症の防御を通じて動物と人の健康・福祉に貢献する獣医師を養成します。なかでも、南九州の特色である産業動物獣医師の養成に力を入れています。また、平成22年度にはわが国で初めて医学と獣医学が融合した大学院(医学獣医学総合研究科)が設置され、先進的な獣医療を実施する高度獣医師育成コースや国際的に活躍できる研究者育成コースへの進学が可能です。

キャンパス内で畜産動物と触れ合え 充実した実習の日々



獣医学科

加藤 唯 Yui Kato

静岡県 藤枝東高等学校出身

幼少期に飼っていたペットが亡くなった際、無力さを感じた経験から、動物のために何かできるようになりたいと考え、獣医師を目指すようになりました。本学は畜産県にあるため、牛など大きな動物を扱う実習が充実しており、実際に手を動かす機会も多く、畜産動物に関する知識を増やすことができます。養鶏や牛の繁殖農家など、畜産に関わる現場の声も直接聞くことができます。

入学する前は、ペットを扱う獣医師になりたいと考えていましたが、大学に入ってから獣医にも幅広い道があることを知りました。現在は生理学研究室に所属しており、さまざまな科目の基礎となる部分の研究を行っています。ここで学びながら、自分の将来を模索したいと思っています。

獣医学科 カリキュラム

1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次
教養教育科目					
導入科目(大学教育入門セミナー・情報・データリテラシー・英語・専門接続系)					
課題発見科目(データサイエンス系、自然・生命・技術系、人文・社会・芸術系、地域・国際・学際系)					
未来共創科目(構想・デザイン系)					
学部共通科目		学部共通科目			
● 農学・獣医学入門 ● 農学・獣医学グローバル入門 ● 農学・獣医学DX入門		● 農学・獣医学アートサイエンス演習 ● 農学・獣医学の倫理と安全 ● 農学・獣医学専門英語演習			
専門基礎科目					
● 獣医学概論・獣医学史 ● 動物福祉学 ● 獣医畜産法規					
基礎獣医学					
● 解剖学Ⅰ・Ⅱ ● 動物生理学Ⅰ ● 動物遺伝育種学 ● 組織学 ● 発生学 ● 動物生理学Ⅱ・Ⅲ		● 生理学実験実習 ● 生理化学実験実習 ● 薬理学Ⅱ ● 薬理学実験 ● 獣医動物行動学		● 放射線生物学	
獣医学概論・獣医学史		病態獣医学			
獣医学の理念や歴史を学 ぶとともに、現役の獣医師の 方々を外部講師として招き、 社会的ニーズや、獣医師の職 域の多様性、獣医師の責務を 学びます。		● 免疫学 ● 動物病理学Ⅰ ● 微生物学総論 ● 微生物学各論Ⅰ ● 寄生虫学 ● 寄生虫学実習		● 動物病理学Ⅱ・Ⅲ ● 微生物学各論Ⅱ ● 動物病理学実習Ⅰ ● 魚病学 ● 微生物学実習Ⅰ・Ⅱ ● 家畜疾病学 ● 動物感染症学実習 ● 人間共通感染症学	
		臨床獣医学			
		● 野生動物医学		● 公衆衛生学・食品衛生学実習	
		臨床獣医学			
獣医動物行動学		● 獣医臨床学総論Ⅰ ● 画像診断学 ● 獣医臨床学総論Ⅱ ● 獣医臨床学各論Ⅰ～Ⅲ ● 馬臨床学 ● 獣医画像診断学実習 ● 産業動物臨床学 ● 臨床繁殖学Ⅰ・Ⅱ ● 小動物内科学実習 ● 獣医外科学実習Ⅰ ● 臨床繁殖学実習		● 臨床診断治療学ⅠⅡ ● 獣医外科学実習Ⅱ ● 産業動物診断治療学実習 ● 伴侶動物参加型臨床実習Ⅰ ● 産業動物参加型臨床実習Ⅱ	
犬や猫、産業動物を中心に、獣医学が対 象とするさまざまな動物種について、行動 様式や行動の起こるしくみ、そのしくみが 発達する過程などを学びます。		その他			
		● 畜産学実習		● 臨床専修実験Ⅰ・Ⅱ ● 海外獣医学研修	
		● 獣医インターンシップ ● 卒業研究			
		アドバンス畜産・獣医学発展科目			
		● 家畜栄養学 ● 動物環境管理学 ● 飼料作物学			
アドバンス科目		アドバンス科目			
● アドバンス伴侶動物医療学Ⅰ ● アドバンス獣医地域行政学		産業動物参加型臨床実習		● アドバンス理論感染症学 ● アドバンス伴侶動物高齢獣医学 ● アドバンス伴侶動物医療学Ⅱ ● アドバンス産業動物臨床学 ● アドバンスグローバル獣医学 ● アドバンス野生動物臨床獣医学 ● アドバンス動物生命科学	
		地域の畜産農家さんのもとを 教員や獣医師とともに訪れ、実際 の臨床現場において診断方法、 適切な治療法などを学びます。		● アドバンス実践感染症学 ● アドバンス産業動物先端獣医学	

求める学生像



獣医学科では、農学に関する基礎知識、獣医専門知識、獣医的倫理観、獣医的応用・実践・開拓力、地域・国際社会への貢献能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、獣医学科では、次のような人材を求めています。

- 自然科学や社会的な課題に対する強い関心と、獣医学を学ぶことに対して明確な目的意識を持ち、修得した知識によって自然と共生する社会の実現に貢献する意欲を持っている人
- 国籍や言語、文化、考え方の違いを超えて、他者と協調しながら活動するために必要な語学力や自己表現力を養う意欲を持っている人
- 根拠に基づいて論理的に課題を解決するために、情報分析力、洞察力、課題探求力、思考力を養う意欲を持っている人
- 数理データサイエンス・AI やそれらを活用した先端技術に興味を持ち、それを主體的に学ぶ意欲を持っている人
- 学校推薦型選抜(地域枠)においては、獣医師として宮崎県に暮らす人々の生活を守り、地域の農林畜産業の発展に貢献する意欲を持っている人

私のいる附属動物病院では、先進的な治療を実施し、日々の診療と並行して、次世代の獣医師育成に向けた教育および臨床研究にも力を注いでいます。

近年、小動物医療は飛躍的な進歩を遂げ、分野によつては人医療に匹敵するレベルに到達しています。本院では、最先端の知見と技術を取り入れ、動物一頭一頭に最適な獣医療を提供しています。これらの高度医療は、動物の生命や生活の質(QOL)の向上に寄与するだけでなく、ペットを持つ飼い主の心を支える役割も担うと感じます。さらに、本学の研究活動は、動物医療の発展にとどまらず、人の疾患理解や新たな治療法の開発にも貢献しています。動物と人の健康をつなぐ学問として社会的意義を有し、その最前線として、教育・臨床・研究の融合を推進しています。



獣医学科

准教授 井上 賀之 Yoshiyuki Inoue



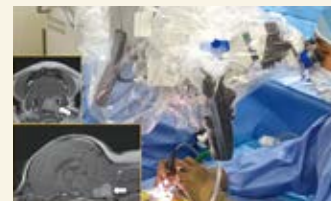
ココに注目!

宮崎で学ぶ実践教育 －Miyazaki+ (プラス) 連携教育で獣医師の育成－



獣医学教育モデル・コア・カリキュラムが制定され、わが国の獣医学教育が大きく変わりつつあります。その中で宮崎大学が培ってきた獣医師育成の土台は変わることなく、実践的な教育を主体とした、自主的に学ぶ素地を身に付けた学生を育むことです。附属動物病院での診療に参加し症例から学ぶ臨床教育や人獣共通感染症教育・研究プロジェクトを軸にした感染症／防疫に関するユニークな教育、基礎～応用に段階的に進む充実したカリキュラム・マップ、南九州に根ざした“触れる”産業動物教育、など豊富な教育コンテンツを有する宮崎大学で獣医師への一歩を踏み出してみませんか。

また、東京大学、大阪公立大学との連携教育により講師派遣および遠隔講義を実施しており、これまでに感染症学、薬理学、臨床などの各分野で強みのある専門教育を相互に提供しています。この連携教育での講義は都市型と地方型の異なる問題解決能力を学び、それぞれに還元する有意義な教育材料となっています。

小動物臨床教育風景
(附属動物病院における伴侶動物臨床実習)

脳外科手術の風景

卒業後の主な進路

伴侶動物の臨床(イヌ、ネコなどの獣医師)、産業動物の臨床(ウシ、ブタなどの獣医師)、医薬品会社(営業職、研究職など)、飼料会社、公務員(公衆衛生など)、大学院進学 他

※多くの場合、獣医師免許を取得することを条件に、面接などの採用試験を受験し、採用の可否が決定されます。

取得可能な免許、資格

■ 獣医師(国家試験受験資格)^{※1}■ 学芸員^{※2}■ 食品衛生管理者^{※3}■ 食品衛生監視員^{※3}

※1 所定科目の単位を取得すると、獣医師国家試験の受験資格を得ることができます。

※2 所定の単位を修得し、申請すると「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。

※3 卒業までに所定の単位を修得する必要があります。卒業後の勤務先で資格取得が必要となった場合に手続きを行います。

※時間割の都合上、複数の取得可能な免許、資格の取得は困難な場合があります。

大 学 院

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/departments/gsa-master.html>



農学研究科(修士課程)

本研究科では、学部教育の専門性をさらに深化させ、高度で先端的な知識と技術を修得できる大学院教育を行います。国内外の食料、環境、資源および生命に関する課題を解決し、自然環境と調和のとれた持続的生産社会の創造に貢献できるとともに、農学に関する高度な専門知識と応用能力を有する国際性豊かな高度専門技術者及び研究者の育成を目指します。

農 学 専 攻

植物生産環境科学コース

植物機能の開発・向上、生物環境の解析・制御、生産・加工・流通における農業生産環境の改善、地域生態系の管理等に関する高度な専門知識を教育し、その研究者や実践者を養成します。さらに国際的視野を持ち、安全で持続的な植物生産とその利活用に寄与できる人材を育成します。

植物生産システムについての高度な専門的知識と農業課題に対して科学的論究ができるとともに、経済活動と環境に調和した生物資源の適正な管理・利用、食料生産における機械化・装置化など農業生産環境の向上・発展を担うことができる人材を養成します。

森林緑地環境科学コース

人類の生存には水資源や森林・緑地の適切な管理が重要です。本コースでは森林および緑地の環境保全と生態系修復、森林資源や水資源の持続的利用に関する先端技術を教授し、国際社会での活躍も視野に、資源・環境問題に指導的な立場で活躍できる高度専門技術者・研究者の育成を目指します。

森林・緑地の機能や林産物の利用に関する高度な専門知識と技術を広く修得し、それらを活用して森林・緑地環境における諸課題に意欲的に取り組み、自らの判断プロセスを論理的かつ効果的に他者に伝えるための高度なプレゼンテーション能力および豊かなコミュニケーション能力をもつ人材を養成します。

応用生物科学コース

生物科学に関わる知識と技術を有し、応用生物科学分野での科学技術の発展に寄与できる総合的な知識と実践力を備えた高度技術者および研究者を養成します。また国際化・情報化時代に対応できる人材の育成を目指します。本コースの修了生は、農業、化学、食品、医薬等の分野の技術者・研究者としての活躍が期待されます。

生物機能や食品機能に関する高度な専門知識と技術を有し、多方面から理論的に理解できる能力と応用生物科学分野の先端的・独創的な科学技術を活用して、地域・国際的に寄与でき、目的達成のための計画をデザインし、調査研究を進め、得られた情報を正確に解析して発信するための語学能力とプレゼンテーション能力をもつ人材を養成します。

海洋生物環境科学コース

海洋・河川・池沼などの水圏における生物生産につながる幅広い基礎知識と応用技術を有し、水圏生物の生物多様性および生態系との調和を前提とした生産・利用技術の発展に貢献できる高度専門技術者および研究者を育成します。また、海洋生物や水産科学分野の中心的リーダーとして国際的に活躍できる人材の育成を目指します。

水域環境の保全、水産資源の管理・活用、水産化学、増養殖等に関する高度な専門知識や技術を有し、調和のとれた持続的生産社会を構築するため、水圏生物と人間社会との共存を前提に、問題点を専門的・論理的に洞察して、その解決策を提案できる能力をもち、併せて、研究結果を論理的に説明するためのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力をもつ人材を養成します。

畜産草地科学コース

「土―草―家畜のつながり」と「from Farm to Table」を教育理念として、環境調和型・持続生産型の安全で高品質な畜産物生産システムに関する高度な教育研究を通じて、世界的視野を持ち、畜産草地に関して多面的に展開できる理論と専門的技術を修得した高度な専門職業人の養成を目指します。

環境調和型・持続生産型の安全で高品質な畜産物生産システムに関する高度な専門的知識と技術を備え、自然環境と調和のとれた持続的な畜産草地生産システムの構築に伴う諸課題を多面的観点から論議し、解決策を提示できる能力、国内外の「食料・農業・農村」をめぐる諸課題に、高度専門職業人としての協調・倫理性を持ちながら自らの考えを提示・表現できる人材を養成します。

農学国際コース※

農学専攻が一専攻である特徴を活かし、学部教育で不十分であった分野横断型の環境保全的生物生産、動植物の統合的防疫、及び生物遺伝資源の保存と利活用に関する課題探究・問題解決型の3つの実践プログラムを提供します。そして、海外の学術交流協定校と連携した相互交流教育を実践することにより、農学に関する多様で高度な専門知識・技術を国際的に活用し、展開できる高度専門技術者および研究者を育成することを教育目標とします。

また、海外の学術交流協定校と連携した相互交流教育を実践することにより、農学に関する多様で高度な専門知識・技能を、国際的に活用し展開できる高度専門技術者及び研究者の育成を目指しています。

※コースのカリキュラムは、原則、全て英語で実施します。

医学獣医学総合研究科(修士課程)

医学獣医学総合研究科医科学獣医学専攻は、生命科学の発展と社会の向上に寄与することを使命としています。

医科学獣医科学専攻

生命科学研究者育成コース

医学と獣医学が連携・融合することにより、生命科学に関する広範な知識に基づいた総合判断力と研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する研究者及び教育者の養成を目的とします。
本コースでは、生命科学に関する広範な知識を学んだ上で、医学ないし獣医学研究における重要な基盤技術を修得し、自立した研究者として研究を行うための基礎を修得することができます。

高度医療関連技師・サービスイノベーション人材養成コース

合理的、科学的な思考能力を有し、より高度で先進的な医療支援に携わることができる人材、また、該当医療支援領域における後進の教育・指導に当たることができる人材を養成します。
本コースでは、医療現場における専門的医療支援技能者が、合理的・科学的な思考能力を修得し、個々の専門医療支援領域に関する最新の動向と技術の理論について学び、その後、各専門分野で研究を遂行するために必要な基礎知識と技能を修得することができます。

生命倫理コーディネーターコース

希少性のある専門職業人として今後の社会ニーズが期待される臨床倫理コンサルタントの養成を目的とします。
本コースでは、生命倫理及び基礎医学に関する知識を修得した上で、最新の倫理指針や法律、社会環境疫学・医療統計学を学び、さらに専門的な倫理学的方法論、倫理的推論のプロセス、倫理コンサルテーションのスキルを修得することができます。

農学工学総合研究科(博士後期課程)

農学工学総合研究科は、農学と工学の学問的背景と連携協力の実績を踏まえて、農学と工学が連携・融合した教育研究領域の深化を図り、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者・研究者の養成を目指します。

資源環境科学専攻

資源の枯渇、自然及び生活環境の悪化、食糧危機などの人類が直面しつつある課題に取り組むために、資源の有効利用と資源循環による環境負荷の低減を基調とした、安全で活力ある循環型社会の構築に貢献できる高度専門技術者・研究者の養成を目的としています。そのため、本専攻では都市、農耕地、森林を一体化した循環系及び共生系として捉え、省資源、資源の再利用と再生利用による健全な資源循環・環境共生型の農・工業生産体系や安全で豊かな生活における低循環環境負荷型システムに関する教育研究を深化させます。

生物機能応用科学専攻

本地域及び国際社会が抱える食料・エネルギー・環境問題の課題に取り組むために、動植物、微生物及び水産生物資源が有する諸機能の解明と、それに基づいた知見を応用することにより、地域社会のニーズや国際的諸課題の解決に貢献できる高度専門技術者・研究者の養成を目的としています。そのため、微生物が有する潜在機能を解明し、環境汚染物質の分解や地域バイオマス資源の有効物質への変換に関する研究や、動植物や食品が有する機能性評価システムの構築及び機能性物質検索システムの開発に関する研究を行っています。

物質・情報工学専攻

環境調和・循環型及び高度情報化社会の課題に取り組むために、環境調和型新材料の構築、エネルギーの変換・解析、省エネルギー化・高度情報化された生産技術の開発、高度なアルゴリズムとソフトウェアを活用した情報処理技術及び数値モデルの構築に貢献できる高度専門技術者・研究者の養成を目的としています。そのため、ナノオーダーで制御された機能性材料の創世等及び自然共生型エネルギーの高効率変換システムの開発、エネルギー計測及び解析に関する教育研究を行います。また、生産工学等に基づいた計測・制御システムの開発や、環境負荷低減型の設計・生産技術、情報ネットワーク技術等に基づいた生産情報の知的管理等の課題に対応できる教育研究を行います。

医学獣医学総合研究科(博士課程)

医学獣医学総合研究科医学獣医学専攻は、高度専門職業人としての医師、獣医師及び研究者・教育者の養成を主眼とし、医学・獣医学の分野において自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とし、医学・獣医学の発展と社会の福祉の向上に寄与することを使命としています。

医学獣医学専攻

高度臨床医育成コース

高い倫理観を有する専門性の高い判断・治療技術に裏打ちされた高度な研究マインドを持った指導的臨床医、臨床と研究をバランスよく経験し、兼ね備えた高度臨床医を目指します。
なお、研究活動を通じて最新の知識を修得し、研究者としての基礎を確立するとともに、各分野別の臨床研究を自立して遂行し得る能力を修得することを到達目標としており、各医学専門学会での専門医資格取得を視野に入れた診断・治療技術を修得可能となっています。

高度獣医師育成コース

伴侶動物や産業動物の健康を管理するために必要な高度な診断技術と治療法及び研究能力、食肉衛生、家畜衛生及び公衆衛生関係で働く獣医師に対して指導できる能力、病因の解明にあたるための高い研究マインドを涵養しつつ、高度な研究方法の取得と同時に、医学関係の高度な診断・検査法、治療法、手術方式を取り入れた、より高い診断・治療技術を有する指導的獣医師の養成を目指します。

研究者育成コース

本研究科における大学院教育の中核を成すコースであり、基礎研究のための課題を複数の科目を通して体系的に修得するコースワークが特徴となります。将来、研究者として自立するために必要な医学・獣医学の両分野にまたがる幅広い専門知識や研究に必要な実験のデザイン等の研究手法や研究遂行能力を有する国際的に活躍できる研究者育成を目指します。

附属施設

附属次世代農学教育研究センター

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/fsce/index.htm>



附属次世代農学教育研究センターは、それまでの附属フィールド科学教育研究センターを令和7年4月に改組し発足しました。下記の4つの既存のフィールドからなる先端フィールド実践部門に加えて、地域共創・異分野融合推進部門が新設されました。農林水産業における様々な課題を解決していくために、学内の他学部や地域との協働による新たな取り組みを迅速かつ効果的に実践するための教育研究を行っています。

■ 木花フィールド(農場)

木花フィールド(農場)は木花キャンパス内に位置し、水田や畑などの総面積31haを有します。大学農場としては日本初のJGAP認証を取得しています。水稻、畑作物、果樹、施設野菜などを栽培し、生産物は市場販売のほか、大学生協でも販売しています。



■ 田野フィールド(演習林)

田野フィールド(演習林)は宮崎市西方に位置する田野地区の他に、串間市に大納地区と崎田地区の3カ所、計約620haの森林を有します。田野地区はヒノキ壮齡林や常緑広葉樹林が特徴で、直営による木材生産を維持し、各種林業機械のほか、宿泊施設も備えています。



■ 住吉フィールド(牧場)

住吉フィールド(牧場)は大学キャンパスから北約10kmに位置し、総面積50haの敷地と約300頭の家畜を有する西日本最大級の大学附属牧場施設です。粗飼料をほぼ自給し、家畜生産のみならず畜産物利用や防疫など、総合的かつ実践的な教育を行っています。



■ 延岡フィールド(水産実験所)

延岡フィールド(水産実験所)は、キャンパスから約100km離れた延岡湾湾口部に位置し、東九州沿岸域の臨海施設としては唯一です。海洋生物飼育棟が併設されFRP製水槽群等のほか、船舶はゾステラ丸(1.3t、定員11名)を有しています。



附属動物病院

https://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/vet_hosp/index.html



宮崎大学農学部附属動物病院は、動物病院研究室、獣医内科学研究室、産業動物内科学研究室、獣医外科学研究室、獣医臨床放射線学研究室、獣医寄生虫病研究室、産業動物臨床繁殖学研究室の7研究室により成り立っており、獣医学科学生の臨床教育、実習の場としてはもとより、農学部の一附属施設として他学科、他施設にも利用されています。

牛の繁殖障害のほか、難治性の代謝性疾患、運動器疾患、臍部疾患なども積極的に受け入れており、伴侶動物(犬、猫)に対しても、最新の研究成果や技術を取り入れ、難病で苦しむ動物たちに専門性を備えた高度獣医療の提供を行っています。

農学部獣医学科と特に関連の深い部局

産業動物防疫リサーチセンター

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/cadic/>



産業動物防疫リサーチセンターは平成23年10月に設置され、防疫戦略部門、感染症研究・検査部門、国際連携・教育部門、畜産研究・支援部門の4部門で構成されています。口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザへの対応経験を基盤に、産業動物の重要感染症に関する疫学、国際防疫、診断・予防法の先端研究を推進しています。また、発生時の防疫措置の立案や再発防止を担う人材を育成し、教育・研究拠点として国内外の畜産基盤の安定化に貢献しています。さらに、人獣共通感染症の研究にも取り組み、医学・獣医学の連携によるワンヘルスアプローチに基づいた感染症制御の実現を目指しています。



附属農業博物館

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/museum/>



宮崎大学農学部附属農業博物館は昭和10年に旧船塚キャンパスに設置され、昭和61年に新館が現在地に竣工されました。平成10年には文部省(現在の文部科学省)による大学博物館事業の下で、省令化施設になり、平成16年には博物館相当施設に指定されています。

現在の博物館は、本館と分館を有し、本館では、農・林・畜・水産業に関したさまざまな資料を展示するとともに、農学部で行われている最新の教育研究とその成果も紹介しています。分館には、視聴覚機材を備えた講義室、実験室があり、学芸員を目指す学生への講義や実習を行うとともに、児童生徒や一般の方を対象とした各種講座を行っています。



地域連携活動

「農」のチカラで地域と連携を

宮崎大学農学部は、大学と地域の連携を重視し、研究・教育で培った知見や技術を地域活性化に生かすとともに、自然豊かで農林水産業が盛んな宮崎から学び、発展を図っています。多くの研究・教育が地域と結びつき、自治体や研究機関とも協定を結んで連携活動を行っています。



■ 川南町特産ラズベリーブランドを作る!

暖地でも栽培可能なラズベリー育成を目的に、宮崎自生のナワシロイチゴと栽培品種を交配し、「07RUBIXP01」(登録番号第21801号)を育成しました。本品種は食味・収量性に優れ、無農薬栽培が可能で、地域と連携して作出されました。講義や実習を行うとともに、児童生徒や一般の方を対象とした各種講座を行っています。



■ 海で育んだ巨大ヤマメ、みやざきサクラマス

冬季にヤマメを海面養殖する技術開発に取り組んでいます。県北部の内湾で五ヶ瀬産ヤマメを約4か月養殖すると、淡水養殖に比べ体重が約10倍に増え、桜色で脂ののった美味しい魚になります。この技術により、新たな地域ブランド魚「みやざきサクラマス」が誕生しました。秋には大粒の黄金色のイクラが多く採れ、生産性も向上します。



■ 世界農業遺産地域を支える山腹用水路

宮崎県北西部の高千穂郷・椎葉山地域は、林業と農業を組み合わせた農林業複合システムにより森林と農業の調和がとれた地域として、2015年に世界農業遺産に認定されました。農学部では地域資源創成学部と連携し、林業・農業・文化の価値を客観的に評価する研究を行っています。



■ 畜産環境衛生の科学的支援 in 小林市



宮崎県は2010年の口蹄疫被害から復興し、「全国和牛能力共進会」で3大会連続の内閣総理大臣賞を受賞しました。一方で畜産農家の高齢化と後継者不足により飼養戸数や子牛生産は減少。東アジアでの口蹄疫発生も続き警戒が必要です。小林市は高齢農家の負担軽減のため2011年に巡回型消毒サービスを開始し、連携する農学部は牛舎の消毒効果を検証して防疫強化と和牛増頭に貢献しています。

■ 地域の高校生や中学生を対象とした科学講座



地域の中高生向けに「ひらめき☆ときめきサイエンス」や出前実験などの講座を実施しています。身近な疑問や最新科学を実験・体験を通して学び、次世代の科学への関心を高めることを目的とした活動は10年以上続き、受講生の中には本学に進学した学生もいます。

国際交流活動

宮崎大学は、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもと、グローバル化する農業分野の変化と多様な社会の要請に応え、人間性・社会性・国際性を備えた専門職業人を養成し、国際的に通用する研究活動を積極的に推進しています。

海外留学・海外派遣

宮崎大学では、海外へ留学したい学生に向けた海外留学事業申請の支援を行っています。文部科学省の「官民協働海外留学支援制度〜トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム〜」では、農学部・農学研究科から、これまで約20名の学生が本制度を活用して留学に「トビタテ」しました。

また、部局間協定締結先の釜慶大学(韓国)とは、積極的な国際交流活動を展開しており、日本学生支援機構(JASSO)の学生短期派遣事業に2014年度以降、毎年継続して採択されています。本派遣事業「学士・修士一貫型グローバルな海洋科学技術者育成プログラム」では、派遣先大学と学術交流セミナーを開催し、学生らが自身の研究成果を英語で発表する機会を設けています。今後はアジアにおける協定校とのアジア圏ネットワークを生かした教育・研究活動を展開していきます。



様々なJICA事業への取り組み

農学部・農学研究科では、国際協力機構(JICA)が実施している各種の支援事業に参画しています。これまで、「アフガニスタン国 未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト(通称:PEACEプロジェクト)」・「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(通称:ABE イニシアティブ)」等の制度により研修生を受け入れてきました。中でも、「PEACEプロジェクト」制度においては、これまで30名以上のアフガニスタンからの留学生を研修員として受け入れており、全国農学系大学でトップクラスの実績を誇っています。



カリキュラムマップ

1年				2年				3年				4年				進路について							
農 学 科	入 門	基 礎			発 展			応 用															
	【学部共通必修科目】 農学・獣医学入門、 農学・獣医学グローバル入門、 農学・獣医学DX入門 【学科共通選択科目】 基礎環境資源経済学、 環境気象学、基礎動植物学、 GAP概論、動物行動学、 化学概論、基礎海洋資源科学、 基礎行動・生態学、 九州沖縄農林水産学	宮崎の農業	コース 配属	▶	動植物資源生命 科学コース	栽培学、土壌肥科学、農業経済学、植物 育種学、動物生殖生理学、家畜栄養学、野 菜園芸学総論、果樹園芸学総論、施設園 芸学、昆虫生態学、植物病理学総論など			動植物資源生命科学専門実験・実習 Ⅰ・Ⅱ、動物育種学、植物栄養生化学、 植物遺伝資源学、園芸利用学、畜 産食品製造学など			卒業研究 農学・獣医学データサイエ ンス演習、農学・獣医学の 倫理と安全、専門英語演習											
		森林環境持続性科学 概論、環境計測学、 景観生態学	コース 配属	▶	森林環境持続性 科学コース	森林生態学、樹木学、樹木学実習、樹木 生態生理学、木本植物組織学実験、森林 計測学、森林経済学、環境防災学、砂防 学、土質力学、構造力学など			造林学、森林計画学、森林保護学、植 生調査実習、環境空間情報学、水資 源管理学、測量学、環境材料学演習 など														
		海洋生物環境学概論、 水産食品科学、 水域生物生理学	コース 配属	▶	海洋生命科学 コース	海洋生物分類学、浅海生態学、生物の多 様性と遺伝子科学、魚類学、魚類生理 学、養殖学入門、水産化学、水族生理学 実験、水産化学実験、サンゴ礁学など			水族生産学体験講座、水産飼料学、 魚病学、水産増養殖学、海洋分子科 学、微生物との共生、魚類生態環境 学、水産科教育法など														
		有機化学、分析化学	コース 配属	▶	応用生命化学 コース	化学各論、生物分子化学、酵素化学、生 物化学、微生物学、食品栄養化学、食品 製造学、分析化学実験、有機化学実験、 生物化学実験など			細胞機能分子化学、生体分子機能化 学、食品機能化学、植物生理学など														
1年				2年				3年				4年				5年				6年			
獣 医 学 科	基 礎 獣 医 学				病 態 獣 医 学				臨 床 獣 医 学														
	獣医学概論・獣医学史、動物福祉学、発生学、動物生理 学、獣医動物行動学、解剖学実習、組織学実習など				動物病理学、微生物学総論・各論、家禽疾病学、動物感染症学、人獣共通感染症学、 寄生虫学実習、公衆衛生学・食品衛生学実習など				▶		獣医臨床学	獣 医 学 共 用 試 験	獣医診断治療学、参加型臨床実習など				獣 医 師 国 家 試 験						
									▶		専修実験		獣医インターンシップ		アドバンス獣医学 卒業研究								
【教養教育科目】 [導入科目]大学教育入門セミナー／情報・データリテラシー／英語／専門教育接続セミナー／統計学基礎 [課題発見科目]データサイエンス系／人文・社会・芸術系／自然・生命・技術系／地域・国際・学際系 [未来共創科目]構想・デザイン系／協働・創造系																							

大学院進学をはじめ、公務員、農畜産関連企業、
食品関連企業など、幅広い進路が選択可能です。

進 学

大学院農学研究科(修士課程)
大学院農学工学総合研究科(博士後期課程)

就 職

公務員(県庁、市役所、農林水産省、林野庁、教員
など)、農畜産・食品関連企業(試験研究機関、農
業団体、肥料・種苗会社、農業法人、食品流通業、
醸造業など)、林業、木材産業、環境・緑化・農業
土木関連企業、水産物・食品・飼料製造流通関連
企業、漁運・漁協等団体、船舶会社、水族館、博物
館、化学工業、環境化学関連企業、医療・製薬関
連企業

獣医師国家試験

獣医学共用試験

獣医学科



教 員 紹 介

のうがく図鑑



	氏 名	研 究 テ ー マ
農学科動植物資源生命科学領域	國 武 久 登	食用作物の品種改良に関する研究
	平 野 智 也	花きの品種改良に関する研究
	佐 伯 雄 一	根粒菌のゲノム生態学的研究
	山 本 昭 洋	様々な環境下における植物の成長制御に関する研究
	圖 師 一 文	野菜のおいしさ・機能性成分の向上に関する研究
	宇田津 徹 朗	東アジアにおける環境と共生した水田稲作技術の変遷に関する研究
	松 尾 光 弘	環境低負荷型作物栽培技術の開発と持続的雑草管理に関する研究
	中 村 薫	花き類の栽培・増殖技術や品種育成・利用拡大に関する研究
	湯 浅 高 志	作物の収量・環境ストレス耐性の向上に関する研究
	本 勝 千 歳	常緑果樹・熱帯果樹の生殖生理に関する研究
	増 田 順一郎	野菜・花きにおける育種と栽培技術の開発に関する研究
	稲 葉 靖 子	植物の生殖器官における熟産生機構とその利用に関する研究
	霧 村 雅 昭	再生可能エネルギーを利用した脱炭素・資源循環型農業システムに関する研究
	竹 下 稔	植物-ウイルス間相互作用と媒介昆虫による植物ウイルスの伝播に関する研究
	安 達 鉄 矢	生物的防除を基幹とした総合型害虫管理に関する研究
	槐 島 芳 徳	高品質農業生産のための機械化・情報化に関する研究
	日 吉 健 二	AIを導入した農業用機械の開発に関する研究
	木 下 統	農作業の安全性・快適性に関する研究
	山 本 直 之	環境共生型物質循環システムの経営経済的評価に関する研究
	狩 野 秀 之	農産物の産地間競争に関する計量経済学的研究
	井 上 慶 一	家畜の育種改良と遺伝的多様性の保全に関する研究
	石 田 孝 史	家畜の育種改良における統計遺伝学および分子遺伝学的研究
	續 木 靖 浩	動物生産における生殖制御に関する研究
	右 京 里 那	動物の繁殖とそれに関わる行動に関する研究
	高 橋 俊 浩	動物生産における栄養機能の解析と利用に関する研究
	西 村 慶 子	自給飼料を活用した家畜の飼養に関する研究
	坂 本 信 介	家畜・動物園動物・野生動物の行動と生態およびこれらの動物の環境管理に関する研究
	徳 永 忠 昭	効果的な優良家畜集団造成に関する研究
	邊 見 広一郎	黒毛和種における分娩前後の母牛の生理・栄養状態が子宮内環境および繁殖性に及ぼす影響の解明
	井 口 純	ヒトや家畜に病気を引き起こす細菌の遺伝学的研究
	安 在 弘 樹	放牧草地と家畜の生態系と生産システムに関する研究
	飛 佐 学	草地における牧草生産と管理に関する研究
	井戸田 幸 子	草地における粗飼料の生産と土壌環境に関する研究
	新 美 光 弘	暖地における草類利用と温暖化抑制に関する研究
	田 中 秀 典	多様な遺伝資源を活用した草類育種に関する研究
	権 藤 崇 裕	草類の分子育種とその安全性評価に関する研究
	河 原 聡	畜産食品の品質向上に関する研究
	仲 西 友 紀	畜産食品の機能性成分に関する研究
	石 垣 元 気	温帯地域におけるイネ科およびマメ科の生産
	越 本 知 大	野生動物からの新規実験動物リソースの探索と開発
	篠 原 明 男	新規バイオリソースの開発と消化管内微生物叢の適応に関する研究
	名 倉 悟 郎	家族及び兄妹関係と動物の環境適応に関する研究
農学科森林環境持続性科学領域	伊 藤 哲	森林の育成と生物多様性の保全・修復に関する研究
	雫子谷 佳 男	木本植物の木部形成と木材材質の変動に関する研究
	高 木 正 博	森林生態系の炭素収支に関する研究
	藤 掛 一 郎	木材生産と森林環境保全を両立させる人工林経営と地域林業に関する研究
	光 田 靖	森林の多面的機能に配慮した森林計画に関する研究
	櫻 井 倫	木材生産のための作業技術・機械・林道に関する研究
	篠 原 慶 規	森林・農地の水資源及び緑を活用した防災に関する研究
	竹 下 伸 一	流域における水・気候資源の評価に関する研究
	徳 本 雄 史	植物の生態系内での役割解明と生態系機能の回復に向けた研究
	中 園 健 文	農山村の土地・水・施設の利用に関する研究
	平 田 令 子	森林生態系における野生動物の保護・管理、鳥類による種子散布に関する研究
	小 柳 賢 太	山地の攪乱が下流に与える影響の評価
	瀬 戸 美 文	生物多様性の成立・維持メカニズムの解明と、その保全に関する研究

	氏 名	研 究 テ ー マ
農学科海洋生命科学領域	内 田 勝 久	海洋生物における成長と繁殖生理機構に関する研究
	長 野 直 樹	水産生物の種苗生産・養殖技術に関する研究
	田 岡 洋 介	海洋微生物の生理生態と有用物質生産に関する研究
	林 雅 弘	海洋生物が生産する機能性成分の利用に関する研究
	田 中 竜 介	海洋生物における機能性成分の分析に関する研究
	林 康 広	海洋資源を用いた抗ウイルス剤の開発
	深 見 裕 伸	海洋無脊椎動物(特にサンゴ)の進化、生態に関する研究
	ウルバンチク・ヘンリク	海洋性細菌の多様性と進化に関する研究
	村 瀬 敦 宣	沿岸性魚類の生態学的研究と環境教育
	和 田 葉 子	海岸に生息するベントス(カニ、ヒトデ、貝など)の形態や行動、生態に関する研究
	吉 田 照 豊	海洋生物における病原微生物による感染症に関する研究
	引 間 順 一	魚類感染症に対する自然免疫システムや制御性細胞死に関する研究
	河 野 智 哉	魚類免疫の概日リズム発振機構の解明と感染症防除への応用
	宮 西 弘	魚類の環境適応を中心とする生理機構とその養殖応用に関する研究
	西 木 一 生	水産養殖における疾病の対策に関する研究
農学科応用生命科学領域	榊 原 陽 一	プロテオミクスによるタンパク質の機能に関する研究
	黒 木 勝 久	生理活性物質の代謝に関する研究
	服 部 秀 美	肥満に起因する疾患の発症機序についての研究
	江 藤 望	食品成分によるNK細胞活性化と老化細胞の蓄積抑制に関する研究
	西 川 美 宇	代謝動態に基づいた食品成分の機能発現メカニズムに関する研究
	横 山 大 悟	腸内細菌を介した食品の生体調節作用に関する研究
	山 崎 正 夫	共役脂肪酸の生理機能に関する研究
	小 川 健二郎	目疾患の原因と目の健康に有用な素材に関する研究
	吉 田 ナオト	環境と微生物の相互作用解明およびその利用に関する研究
	清 啓 自	発酵性微生物における物質生産に関する研究
	井 上 謙 吾	微生物機能を利用したエネルギー生産と環境浄化に関する研究
	稲 葉 丈 人	植物細胞にけるオルガネラ形成と環境適応におけるその役割に関する研究
獣医学科獣医学領域	塩 田 拓 也	グラム陰性菌の表層分子を標的とした制御に関する研究
	福 永 圭 佑	機能性RNAの設計と細胞機能制御への応用に関する研究
	保 田 昌 宏	脊椎動物の多様な生体機構に関する研究
	脇 谷 晶 一	組織発生に関する分子生物学的研究
	井 田 隆 徳	様々な生物種における生理活性ペプチドと受容体に関する研究
	丸 山 圭 介	ペプチドホルモンによる動物の本能行動の制御と恒常性の維持に関する研究
	池 田 正 浩	腎疾患の治療薬および診断薬に関する研究
	園 田 紘 子	エクソソームに関する研究
	東 島 佳 毅	血管内皮細胞の遺伝子転写制御機構に関する研究
	平 井 卓 哉	豚呼吸器複合病に関する研究
	福 家 直 幸	産業動物および小動物における獣医病理学に関する研究
	上 村 涼 子	産業動物の適正な飼養管理と疾病予防に関する研究
	岡 林 環 樹	産業動物ウイルス感染症および人獣共通ウイルス感染症に関する研究
	齋 藤 暁	人獣共通感染症における分子ウイルス学的研究
	山 田 健太郎	ウイルス性人獣共通感染症の病態形成と制御に関する研究
	山 崎 朗 子	野生獣肉の危害性に関する研究
	井 上 賀 之	伴侶動物の神経・整形疾患における免疫学的研究
	大 菅 辰 幸	小動物における心エコーを用いた血行動態の評価に関する研究
	佐 藤 礼一郎	産業動物における酸化ストレスと疾病、臍部感染症の新規治療法に関する研究
	KIM SU EUN	産業動物における生体指標を用いたストレスや痛み評価研究
	大 澤 健 司	動物の繁殖障害の病態解明ならびに診断治療法に関する研究
	北 原 豪	産業動物の繁殖機能に関する研究
	佐 藤 裕 之	獣医神経病学に関する研究
	吉 田 彩 子	人獣共通寄生虫症の診断、疫学、制御に関する研究
	入 江 隆 夫	寄生虫感染の分子生物学的診断および免疫・分子病態学的研究
	新 井 良 和	ほ乳類のエピジェネティック制御機構に関する研究
	関 口 敏	家畜伝染病の制御に関する研究
	新 村 芳 人	臭覚関連遺伝子を中心とした多重遺伝子族とゲノム進化に関する研究
	永 延 清 和	獣医眼科学および麻酔学に関する研究
	金 子 泰 之	小動物における肝臓疾患時の呼吸器異常に関する研究
	小 林 郁 雄	動物生産における適正な飼養管理に関する研究
	吉 田 貢 太	実験動物の苦痛軽減に関する研究